持続可能な地域づくりに貢献しうる市民参加による 地域政策評価枠組みの開発

長崎大学大学院生産科学研究科 本田 圭助

狙い;地方自治体の持続可能な発展(以下 SD と表わす)のための政策の推進と云う観点からの取り組みとしてアジェンダ 21 があるが、それは基本的な要求を述べているのみで実際の SD 統治のガイダンスとしては十分でなく、地方自治体では総合計画がその役割を果たさなければならない。地方自治体の政策は総合計画の基本構想に沿って推進されており、それを SD の視点から評価する仕組みが必要で、そのような視点から地方自治体の政策評価の枠組み作りについて研究を進めた。

本研究の手順;本研究は、①社会、経済、環境の3側面における政策の持続可能性貢献度評価指標の開発、②政策の貢献度を当該3側面の全ての評価指標で評価するためのマトリクスの開発、③政策実施現場における事務事業展開の評価値を上部階層の政策にフィードバックするシステムの開発、④長崎市第3次総合計画を事例として、一部の政策の持続可能性貢献度評価の試行を行ない政策の持続可能性貢献度評価枠組みが有効であることを確認する。

本研究の方法と内容;① 総合計画では一般に地域の将来像を描いたうえで、階層的に政策の全体がブレークダウンされて構築されている。将来像を達成するための諸課題は地域社会に於ける持続可能性の評価に必要な要素を包含しており、将来像は社会、経済および環境の3側面において一定期間内に達成すべき政策目標である。一方、政策は諸課題の達成に貢献すべきものでなければならないことから、政策の評価指標として諸課題を以ってするということは妥当であると考えられる。そこで評価指標の開発に当たって総合計画から抽出した諸課題に対する住民のニーズ(懸念や期待)をアンケートにより把握し、更にこれらのニーズを因子分析して住民の潜在的希求を代表する比較的少数の共通因子に集約した。この共通因子を基本構想のキーワードとした。

基本構想のキーワードは地域社会のストックとしての性格を有し、社会キャピタル、経済キャピタル及び環境キャピタルの構成要素として捉えることができる。 海外の SD 指標と比較した結果、当該キーワードがオランダで開発された Telos Method の評価指標ストックと類似していることからもキーワードを評価指標とすることは妥当である。

- ② 当該キーワードを社会、経済、環境の3側面に分類し、政策の持続可能性貢献度評価指標として、これをレセプター、事務事業をアクターとする持続可能性貢献度評価マトリクスを構成する。当該マトリクスにおいて、事務事業及びその結果は環境、経済、社会の3側面のキーワード(レセプター)で評価され、得られた事務事業の貢献度は社会キャピタル、経済キャピタルおよび環境キャピタル毎に集約されて、各キャピタルの増減値として3軸座標で表示される。3キャピタルの増減の結果を3軸座標でビジュアルに表示することにより、各キャピタル間の均衡が保たれるよう問題点やトレードオフの所在が明らかにして事務事業の実施内容の改善を図る。
- ③上部階層の政策の評価 y は、事務事業の持続可能性貢献度を x とすると政策体系の階層性を利用したフィードバック関数 $(y=\frac{1}{2}\sum_{i=1}^nf(x))$ で評価される。
- ④ ②項で開発した持続可能性貢献度評価マトリクスと④項で開発したフィードバック関数を結合することにより政策全体の評価マトリクスを開発した。
- ⑤ 政策全体の評価マトリクスの試行;長崎市の第3次総合計画の将来像を達成するための諸課題41個を抽出、これらに対する住民のニーズの把握、ニーズスコアの因子分析により得られた15個の共通因子と課題の関係を整理し、それぞれを評価指標および評価視点とした。総合計画に明示された政策の一部を対象として、本研究で開発した評価指標と持続可能性貢献度評価マトリクスで事務事業の持続可能性貢献度評価した。それより上部階層の政策の評価はフィードバック式によって行った。政策体系の最下層である個別施策の事務事業の評価に当たっては、地域の実態を熟知している住民の意見を取り入れた複数の代替案を持続可能性の視点から比較検討し、トレードオフが最小で且つ社会・経済・環境の3側面に於いて調和の取れた持続可能性が得られる代替案の選定が可能である事を確認した。

研究の結果;住民等のステークホルダの参加による官民協働のもと地方自治体の総合計画が自律的に持続可能な発展を行いうることを明確にし、その具体化のためのツールとしては総合計画の将来像達成のための課題を集約して得られた持続可能性貢献度評価指標、持続可能性貢献度評価マトリクスおよびフィードバックシステムからなる持続可能性貢献度評価枠組みが有効であることを確認した。